

スプレーギクの作業軽便化装置開発による 短茎・高回転生産技術

- 1 中核機関・研究総括者
愛知県農業総合試験場
西尾 譲一
- 2 研究期間
2003～2005年度（3年間）
- 3 研究目的
国際的価格競争に苦しむスプレーギクの先進農家が経営強化のため取り組み始めた切り花の短茎化を基に、生育・開花の斉一性向上技術、短茎・高回転作付技術と、灌水施肥機能を付加した自走式薬散装置、切り花等搬送装置及びネット操作の簡素化技術を開発し、通路幅を30%狭め、ベッド幅を20%広げて施設利用率を70%に高め、年5作、10a当たり25万本生産を可能とする生産技術を確立する。
- 4 研究内容及び実施体制
短茎・高回転生産技術の開発（愛知県農総試、藤目農園）
同一温室内の作付けに適した生育特性から見た品種分類、生育揃い斉一化及び草丈70cm確保のための育苗、温度管理法を開発する。
水・肥料の効率的利用のための株元灌水・施肥技術の開発（愛知県農総試、（株）大仙）
自走式薬散機に株元灌水・施肥機能を付加改良し、株元に吸収特性に対応した施肥と噴霧散水による最小限の灌水を行う方法を開発し、通路の狭幅化と環境保全に対応した灌水施肥技術を確立する。
ネット管理作業の軽便化法の開発（（株）大仙、愛知県農総試）
ナイロンネット両サイドのひもをワイヤーにし、張力を高めて途中の支柱数を減らしてネット上げ作業の簡素化装置及び管理法を開発する。
切り花等の搬送装置の開発（（株）大仙、愛知県農総試、藤目農園）
切り花を抱えて運び出す作業の代替に、モノレール方式の自走式搬送装置を開発し、通路幅30cmを実現する。
広幅ベッド、通路狭化による短茎・高回転多収技術の実用的評価（愛知県農総試、（株）大仙、藤目農園）
灌水・施肥機能を付加した薬散機、ネット管理軽便化装置、搬送装置を利用し、広幅ベッド、通路狭化により使用率を70%程度に高めた65cm切り花の年5作生産の実用性評価を行う。
- 5 目標とする成果
通路を狭くし施設利用率を15～20ポイント高め、65cm切り花の年5作生産技術が確立され、1年に10a当たり25万本の切り花生産が可能になる。相対的コスト低下の実現により、アジア諸国からの輸入に耐えられる産地体質の育成が期待される。